

寄稿

「学校動物飼育に思う」

三条市教育委員会 桜井 真理

見附小学校でヤギを飼ったのがつい昨日のような気がします。ヤギネットワークの便りをいつも楽しみに読んでいます。学校で動物を飼うことは算数や国語を教えることとは違う難しさがあります。飼育の時間のこと、生命を維持していくための様々な努力があることなど、教師が本気にならないとやり遂げることができません。大晦日や元旦にも学校へヤギの世話に行きました。子供達にも「動物にお休みはないんだよ、みんなもウンコをしない日や食べ物を食べない日はないでしょう」と言い続けました。保護者にも学校の先生にも理解してもらい、協力してもらいました。本当に大変だった。でも、だからこそ学びが深く広く、価値のあるものになるのです。

今、学校に学力向上をはじめとする様々な課題が突きつけられている中、教師が本気でその学びの価値を認めて取り組まなければ成功の道はありません。動物飼育の環境が整わない教育の現場ですが、一部の先生達であってもヤギを飼うことの意義を理解して取り組む先生がいてくれることがうれしいです。どんなことでも苦勞して身につけたことは一生忘れない。子供達も先生方もそんな体験をしてほしいのです。そこから育つ子ども達は、生き生きと自分の人生を作る子になっていくのかなーと思います。私は、かけがえのない学びを子供と共にすることがで

きて本当に良かったと思っています。これからいろいろな場所でヤギを飼うことの、動物を飼うことの学びのすばらしさを語っていきましょう。私も学校で伝えていきます。



ヤギとふれあう子供達

○畜産協会では、新規就農者や後継者への支援・情報提供等の活動を行っております。また、家畜とのふれあいイベント等にも協力しております。

今回、ヤギネットワークの世話人（当協会今井参与）にお願いして、学校教育現場での家畜とのふれあいを紹介する記事を依頼し寄稿していただきました。

編集後記

今年は7・13災害や台風の連続発生による被害など農業関係者にとっては胸が痛む日々が続いております。例年であれば、「実りの秋、頭を垂れる稲穂かな」などと風流な気分になることができるのですが、深刻な農業被害を思えばその思いは飛び去ってしまいます。さて、「食欲の秋」に関連して気がかりな事は、アメリカからの牛肉輸入の再開の時期であります。現在、並行して国内のBSE・安全基準の見直しも論議されており、新聞報道では牛のBSE全頭検査が20ヶ月未満の牛を除く方向で検討されているようです。

畜産関係者としては、「牛肉に対する消費者の信頼」が再び崩れはしないか気がかりな内容です。せっかく全頭検査により安全が確保され、消費者の信頼ももどりつつあるのに見直しによりせっかくの対策が無に帰さないように願うものです。「安全、安心」を食の基本として自覚し、安全確認の立証がなされた上での見直しであろうと思うのです。そういう意味においても、「食料の輸入大国の日本」が世界で最も厳しいと言われる日本のBSE検査基準とアメリカからの牛肉輸入再開に至る基準との整合性を取れるのか納得の得られる内容での輸入再開であろうと期待するものです。（花田 記）